市立貝塚病院広報誌
Kaizuka City Hospital
Vol. 08
2013 1月

コスモスだより

婦人科 腫瘍センター

進化に対応する婦人科腫瘍治療を

病院の理念 基本方針

地域住民を守る良質な医療の提供

1．医療を通じ患者さんの歓びが自らの歓びになるような職業人をめざします。
2．常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3．患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4．地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。

発行：市立貝塚病院 広報委員会

婦人科 腫瘍センター

進化に対応する婦人科腫瘍治療を

当院産婦人科は 2008 年 4 月より、りんくう総合医療センター産婦人科と『泉州広域母子医療センター』として統合されました。それぞれに役割分担を行い連携をはかりながら、泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として、運用を行っています。

婦人科腫瘍治療に関しては当院がその役割を担い、婦人科良性腫瘍疾患から悪性腫瘍疾患まで幅広く対応しています。

■ 泉州広域母子医療センターで腫瘍治療の中核を担う当院婦人科腫瘍センター

当院 婦人科腫瘍治療の特徴

- 専門家によるよる安全な内視鏡手術の実施
- 腫瘍治療を多方面から支える専門体制の他、不妊の原因となる腫瘍治療後の不妊治療体制も
- 大阪大学との情報共有による、最新医療の提供
- 婦人科悪性腫瘍研究機構 JGOG の卵巣がん臨床試験にも参加

内視鏡下手術の専門家による、負担の少ない内視鏡下手術を実施しています。

開腹手術と比べ、術後の回復が早く体への負担が少ない内視鏡下手術。しかし、施術箇所を直接目視するのではなくモニターで見るため、開腹手術とは違った専門的な技術が必要とされます。また、全ての手術に適応するわけではなく、その適応範囲は担当する医師の経験や技術も大きな要因となります。当院では、内視鏡下手術の専門家による、より幅広くより安全な内視鏡下手術を実施しております。

内視鏡下手術とは？

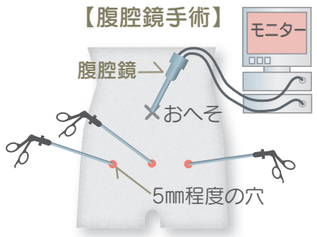
手術部位に小型のカメラ（内視鏡）を入れ、モニターに映しながら手術を行う術式です。

●腹腔鏡手術

腹部に小さな穴を数か所開け、おへそから腹腔鏡（内視鏡の一種）を挿入し、中の様子をモニターに映します。別の穴から器具を挿入し、モニターで確認しながら病巣部を摘出します。病状によっては、単孔式腹腔鏡手術（一つの穴で腹腔鏡と器具を入れる）も可能です。

●子宮鏡手術

子宮用の内視鏡（子宮鏡）を子宮の入り口から挿入し、子宮内の様子をモニターに映します。その画面をみながら、病変を子宮鏡の先端にある電気メスを操作して切開・切除します。そのため、腹部に傷もつけません。



内視鏡下手術のメリット

入院が短く回復が早い	職場復帰が早い！子育てなど、家族への影響も少なくてすむ！
痛みが少ない	傷口が小さいため、術後の痛みが少ない！
傷が目立たない	大きな手術痕が残らず、女性にはうれしい！
癒着が起こりにくい	癒着が原因となる不妊症などが少なくなる！

幅広い治療に対応できる専門体制が充実。不妊治療の対応も可能。

腫瘍治療には、外科的治療（手術）の他、薬物療法・化学療法（抗がん剤）・放射線治療などがあります。当院では、外科治療だけではなく、『化学療法センター』や『緩和ケアチーム』の他、最新型放射線治療装置などの専門スタッフと最新医療器機により、トータルで幅広い治療に対応できる体制を整えています。

最新型放射線治療装置

放射線治療医（治療計画・診療）
医学物理士（治療計画・制度管理）
診療放射線技師（放射線治療専任）

手術

婦人科腫瘍センター

産婦人科医
麻酔医
病理医（病理診断）

放射線治療

薬物治療

緩和ケア

緩和ケアチーム

患者様・ご家族を対象としたがん疼痛ケア
腫瘍内科医・麻酔科医
薬剤師・ソーシャルワーカー
緩和ケア認定看護師

化学療法

化学療法センター

薬剤師（専任）
看護師
通院で抗がん剤治療を受けていただけます

腫瘍の治療後に妊娠を希望される方には、「生殖医療センター」での不妊治療も可能です。妊娠後もりんくう総合医療センターと連携し、妊娠・分娩経過を診察させていただくことができます。

生殖医療センター

腫瘍内科医・麻酔科医
薬剤師・ソーシャルワーカー
緩和ケア認定看護師

大阪大学と情報の共有を行い、新しい治療が速やかに行える体制を整えています。

臨床的な抗がん剤の治療を含めて、治験や症例研究の分担など大阪大学との情報のやりとりを行っています。治療に関する新しい情報を常に取り入れ、より高度で安全な医療の提供に取り組んでいます。

NEWS

女性のための「いい病院」(週刊朝日 MOOK)

婦人科疾のほぼ全ての分野でランクインしました！

当院は「がん拠点病院」として、より質の高い医療の提供に取り組んでおります。特に婦人科系腫瘍については、「乳がんセンター」や「泉州広域母子医療センター」など、地域での役割を担うべく充実をはかってきました。

これまでも、書籍のランキングに取り上げられることはありましたが、2012 年度版の本書では婦人科腫瘍全分野でのランクイン。大学病院や大規模総合病院、専門病院の名前が並ぶ中、当院のような市民病院のランクインは異例であり、当院のこれまでの取り組の成果の現われの一つと考えています。皆様のご期待に添えるよう、今後とも医療の質の向上を目指してまいります。

【順位データ】

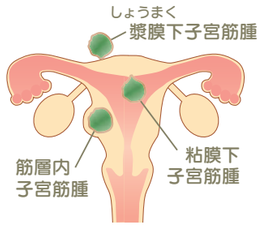
	大阪	近畿
●子宮頸がん（手術数）	12	16
●子宮体がん（手術数）	9	15
●卵巣がん（手術数）	3	4
●子宮筋腫（手術数）	3	4
●子宮内膜症（手術数）	3	5
●卵巣嚢腫（手術数）	7	12
●不妊症（妊娠数）	19	33

■婦人科腫瘍

婦人科良性腫瘍

現在では、４人に１人の女性は子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣嚢腫などの良性腫瘍を持っていると言われています。これらの良性疾患は生命に関わることはありませんが、妊娠や出産に支障をきたしたり、月経時の苦痛や日常生活にまで影響を及ぼすこともあります。

治療法の選択は、疾患の自覚症状や進行状況、生活状況などにより異なってきます。初期や症状が軽度であれば、痛みを和らげる薬物療法や時には経過観察ですむこともありますが、生活に支障が出るような場合には、手術も選択肢に入ります。

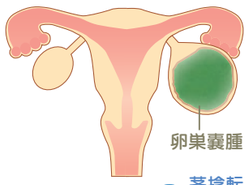


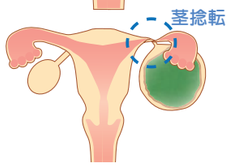
子宮筋腫　子宮の筋肉にできる良性の腫瘍

成人女性の２～３割は持っていると言われ、30 ～ 40 歳代の女性に多い疾患です。

【症状】月経困難症・過多月経・貧血　※無症状の場合も多い
大きくなると周囲の臓器を圧迫し下腹部膨満感や腰痛を伴うこともある

【治療】薬物：鎮痛剤／月経を止める偽閉経療法
手術：筋腫のみを摘出／子宮全摘出





卵巣嚢腫　卵巣にできる腫瘍（※悪性の場合もあり、判別診断が必要）

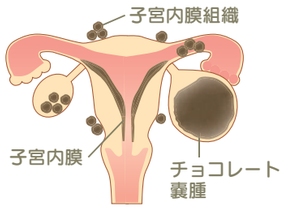
無症状の場合が多く、良性で症状が無い場合は治療をしないこともあり、定期検診で腫瘍が大きくなっていないか経過観察をします。

卵巣嚢腫の種類は、卵巣の中に何が溜まったかによって分類されます。

●漿液性嚢腫：水のような液体が溜まった腫瘍
●粘液性嚢腫：どろどろとした粘液が溜まった腫瘍
●皮様嚢腫・成熟嚢胞性奇形腫：毛髪や歯、脂肪などが入った腫瘍

【症状】大きくなると周囲の臓器を圧迫し下腹部膨満感や腰痛を伴うこともある
嚢腫の根本が捻じれて（茎捻転）、激しい下腹部痛が起こることもある

【治療】手術：腫瘍のみを摘出する遮／卵巣を摘出する／卵巣と卵管を摘出する



子宮内膜症　子宮内膜にしか存在しないはずの組織が子宮の表面や腹腔内の他の臓器に存在し、子宮内膜と同様に増殖する病気

成人女性の１～２割は持っていると言われ、若い女性に増えています。病気の原因は、まだ明らかになっていません。子宮外で増殖した子宮内膜が炎症反応を引き起こすため、痛みや癒着などが生じます。

【症状】月経困難症・骨盤痛（下腹部痛、腰痛、性交痛、排便痛）・不妊症

【治療】薬物：鎮痛剤／月経を止める偽閉経療法／低用量ピル
手術：子宮内膜（病巣）のみを取り除く／子宮や卵巣を全摘出する
※再発しやすい病気のため、根治には全摘出が必要になります。

Q　チョコレート嚢腫とは？

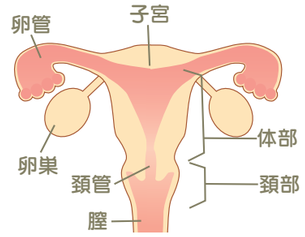
A　子宮内膜症の状態の一つの呼び名です。卵巣に子宮内膜症ができた場合、卵巣の中に出血した血液が溜まっていき、嚢腫が形成されます。溜まった血液がチョコレートのように見えるため、こう呼ばれています。

Q　子宮内膜症は、閉経したら治りますか？

A　以前は閉経して女性ホルモンが出なくなれば問題ないと考えられていました。しかし、現在では閉経しても残存した内膜組織が癌化する「前癌病変」と考えられており、治るとは言えません。

婦人科悪性腫瘍

子宮と附属臓器のがんで最も多いのが子宮頚がんです。続いて子宮体癌・卵巣癌・卵管癌・外陰癌・腟癌となります。生理以外の不正出血・おりもの異常・腹痛など、何かおかしいと思う症状があれば産婦人科を受診してください。



卵巣がん　卵巣に発生するがん

進行するまで症状が出にくく、ある程度の大きさにならないと画像診断でも捉えなれないため、早期発見が難しいがんの一つです。

婦人科検診時の超音波検査や、腹痛で内科に内科にかかって発見されることもあります。

閉経後に多く、卵巣がんの７割は閉経後に発見されており、50 代から 70 代の高齢者にも多いがんです。

【症状】進行すると、腹部膨満感・下腹痛などの症状が出る。

【治療】手術と化学療法を中心に行います。

子宮体がん　子宮体部に発生するがん

排卵がきちんとされていない方や、不妊・肥満などの方は、いつも高い濃度のエストロゲンにさらされていることで子宮体がんにかかりやすいと言われています。また、閉経後は進行しやすい性質を持っています。

【症状】不正出血・月経異常（過多月経、過長月経など）　※初期には症状は無い
宮全体が大きくなった時には、下腹部痛・頻尿などの症状も出る。

【治療】**腹腔鏡手術が可能となる先進医療認定取得に向けての取り組み**
婦人科の悪性腫瘍は、腹腔鏡（内視鏡）の手術適応が下りていませんが、最近ようやく子宮体がんに限り先進医療として適応されることになりました。先進医療の認定には医師と施設があり、当院には認定と受けた医師が在籍しています。平成 24 年 12 月より、施設認定取得に向け取り組みを行っています。

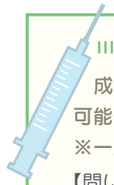
子宮頚がん　子宮頚部に発生するがん (通常の「子宮がん検診」での検査の対象です)

HPV（ヒトパピローマウイルス）が性行為によって人から人へ感染し、細胞が長い間に変化してがん化することで発生するがんです。HPV にも複数の型があり、「ハイリスクグループ」の型にかかってしまうと、高率に変化が起こってしまいます。

【症状】不正出血　※初期には症状は無い
進行すると、おりものが増える、腰や腹部に痛みを感じる、排尿困難、全身の倦怠感などがある。

【治療】早期であれば円錐切除（患部を患部くりぬく）など、簡単な処置での治療が可能です。

子宮頚がんの進行がんに対する妊孕性温存手術（広汎子宮頚部摘出術）が可能
妊孕性温存とは、妊娠能力を残すこと。技術的な専門性を持ち、不妊治療から周産期医療体制を整えた当院は、この治療を実施できる数少ない施設の一つです。



「子宮頚がんワクチン予防接種」を！

成人女性の７割は子宮頚がんの原因となる HPV に感染していると言われるほど、誰もが感染・発症する可能性があり、実際に患者数の多いがんです。しかし、ワクチンで予防できるがんでもあります。
※一度感染したウイルスの除染効果はないため、感染前に接種することが重要です。（対象：満 10 歳以上）
【問い合せ・受付】072-422-5865（代表）月～金曜日　　※詳しくは当院 HP をご覧ください

婦人科がん検診（子宮頚がん検診、乳がん検診）

定期的な検診で
早期発見
早期治療！

当院では、婦人科がん検診を行っております。無料クーポンでの受診も可能ですので、受診できる機会には、ぜひ婦人科がん検診を受けてください。
【問い合せ・受付】　専用回線　072-438-5533（月～金曜日 9：00 ～ 17：00）

■婦人科 医師紹介

◆ 医療の質を高めるための努力を継続する

産婦人科部長兼
婦人科腫瘍センター長
横井 猛

【資格】
日本産婦人科学会
認定医・専門医
日本産科婦人科内視鏡学会
技術認定医・評議員
日本内視鏡外科学会
技術認定医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
近畿産婦人科内視鏡手術
研究会評議員
母体保護法指定医

内視鏡手術（腹腔鏡手術）は、一般の方にも広く知られるようになりましたが、残念ながら婦人科においてはまだ十分な適応がなされていないのが現状です。その中で、私は腹腔鏡の技術を磨く医療現場に恵まれ、当院の前に勤めていた大阪大学病院でも、パイオニアとして腹腔鏡手術を取り入れてきました。当院でも、年々腹腔鏡手術の件数を増やしており、技術指導も含め、今後も腹腔鏡による手術件数を増やしていきたいと考えています。また、施設の先進医療認定取得に向けての取り組みも始めました。医師の先進医療認定は私が取得しており、必要なのは施設での治療実績。先進医療認定取得後は、早期の子宮体がんの腹腔鏡手術が行えるようになります。

婦人科悪性腫瘍治療で課題となるのは妊孕性（妊娠できる可能性）です。非常にデリケートな問題であり、十分なインフォームドコンセントが必要になります。当院では、少しでも妊娠を希望される方のご希望にお応えするため、子宮頚がんの進行がんに対する妊孕性温存手術（広汎子宮頚部摘出術）も行っています。また、卵巣がんは診断がつけば子宮も附属器も全摘出が標準治療ですが、早期に限り、片方を残し経過観察する温存する手術も可能です。しかし、温存にはリスクを伴うことも理解していただかなくてはなりません。

婦人科の手術件数は年間 750 件を越えるまでになりました。今後も、最新の情報を取り入れ、エビデンス（根拠）に基づいた手術・放射線治療・抗がん剤治療を行い、医療の質の向上につとめていきます。また、臨床試験や治験にも積極的に参加し、学会発表なども行い、婦人科腫瘍医療の進展に少しでも貢献できればと願っています。

横井医師が、「Best Doctors in Japan　2012-2013」に選出されました

ベストドクターズ社（本社：米国マサチューセッツ州ボストン）は、1989 年にハーバード大学医学部所属の医師 2 名によって設立されました。病に苦しむ方々が最良の医療を受けられるように、という深い思いが設立の礎です。
ベストドクターズ社では、医師に「自己または家族の治療を、自分以外の誰に委ねるか」という観点から、他の医師についての評価を伺うことで、完全な客観評価での医師選出調査を行っています。この調査で、当院の横井医師が Best Doctors の一人に選出されました。

◆ 様々な局面でより良い医療が提供できる医療体制を

産婦人科副部長
宮武 崇

【資格】
日本産婦人科学会専門医
日本婦人科腫瘍学会専門医

婦人科の手術において考慮しなくてはならないのは妊娠についてです。妊娠できる可能性を残せるかどうかは、若い患者さんにとっては非常に大きな問題。妊娠の希望がある場合、どこまで妊孕性を残した手術が可能なのか・・・患者さんのお気持ちを汲んだうえで、医師としての慎重な判断が求められます。「命との天秤にはかけられない」とお伝えしなければならない時は、私達医師にとっても辛い時だと言えます。

当院は泉南地域での婦人科腫瘍治療の拠点であり、がんの患者さんが増加しています。がんになられた方は、とても大きな不安を抱えていらっしゃることでしょう。その中で、手術や化学療法などの治療だけではなく、少しでも精神的支えになり痛みを和らげるなど、様々な局面で患者さんにとってより良い医療を提供する。そのために、医療者としての日々の研鑽はもちろん、他院との関連も含め、更に充実した医療体制を築いていきたいと考えています。

■『内視鏡センター』が『消化器センター』に変わります

平成 24 年４月より新たに消化器内科が開設されました。加えて、平成 24 年７月から外科スタッフが増員および強化され、消化器疾患および消化器がんへの診療体制が整備されました。充実した消化器診療を実践するために、従来の内視鏡センターを改変して、消化器センターを設置いたしました。

消化器センターでは、消化器の疾患の診断と治療を行います。内科・外科といった従来の枠組みにとらわれず、患者さんに最適の治療を提供できるよう、消化器内科医、消化器外科医、化学療法専門医、放射線治療専門医が協力して診療にあたります。各専門医が参加する合同カンファレンスを行い、さまざまな意見を共有することにより患者さんに最適と考えられる治療法が選択されます。それぞれの分野における最新のエビデンスを応用し、臨床試験に積極的に取り組むことにより質の高い医療が提供できるよう、努めてまいります。

1 月より金 鏞国医師（消化器外科・一般外科）が赴任し、消化器治療体制が更に充実します。

外科 部長 金 鏞国

【専門分野】 消化器（肝・膵、胆道）、一般外科、腹腔鏡下手術
【資　　格】 日本外科学会専門医、日本消化器外科学会認定医、日本乳癌学会認定医、癌治療暫定教育医

平成 25 年 1 月から市立貝塚病院へ赴任することとなりました。前職の大阪労災病院では、肝胆膵疾患を担当し腹腔鏡下肝切除など肝胆膵疾患に対する腹腔鏡下手術の導入に尽力して参りました。また緩和ケアチームに所属し、進行がんの多い肝胆膵疾患で早期から疼痛管理や緩和治療を必要とする患者さんにより良い医療を提供すべく努めて参りました。市立貝塚病院でも外科スタッフと協力して、腹腔鏡下肝切除をはじめ新しい肝胆膵疾患に対する外科治療を実践し、南大阪地域の医療向上に努めたいと思います。

■『乳がん看護外来』開始のご案内

完全予約制

乳がんは年々増加傾向にあり、今や日本人女性の 18 人に 1 人がかかるといわれています。当院でも平成 23 年度の乳腺外科手術件数は 154 例と年々増えており、患者様の年齢も 30 歳代～ 80 歳代と幅広く、悩みも多様化してきています。

そこで、平成 24 年 12 月より『乳がん看護外来』を開設いたしました。乳がんや乳がん治療に伴う気掛かりや困っている事など、どんな些細なことでも乳がん看護認定看護師がご相談をお受けいたします。「乳がんの事もっと知りたい」「どうやって生活していけばいいの？」「こんな悩みは私だけ？」「みんなどうしているの？」などお気軽にご相談ください。ご希望の方は主治医または乳がんセンタースタッフに声をかけてください。

【対　象】当院の乳腺外科にかかりつけの患者様やご家族
【実施日】第 1・3 木曜日 ／ 第 2・4 火曜日　完全予約制

■ 第 35 回　市立貝塚病院　市民公開講座

平成 25 年
1 月 30 日
（水）

【テーマ】 白内障のおはなし
～いつでも「見える」生活をしていただくために、正しい知識で早期発見に努めましょう！～
【日　時】 平成 25 年 1 月 30 日（水）13：30 ～ 15：00
【講　師】 市立貝塚病院　眼科医師 阿部 真保
【場　所】 市立貝塚病院　７階講義室　　【費　用】 無料（定員 80 名　要予約）
【申込・問い合せ】 市立貝塚病院　地域医療連携室　☎ 072-422-5865（内線：236）
※１階総合案内でも受け付けいたしております。